

# 活動レポート

## 日本技術士会北海道本部 倫理委員会

文責：倫理委員会 副幹事長 佐藤 勉

### 令和6年度技術者倫理情報連絡会

#### はじめに

第50回技術士全国大会(札幌・北海道)の初日に開催された「技術者倫理情報連絡会」を統括本部、地域本部及び技術者倫理研究会の参加(会場参加37名、Web参加18名)において令和6年10月4日(金曜日)かでの2・7 820研修室にて開催致したので報告する。



写真-1 技術者倫理情報連絡会状況

#### 1. 統括本部倫理委員会活動報告

統括本部倫理委員会の活動内容について塩原委員長より報告があった。倫理委員会のミッションとして、「技術士及び技術者の倫理啓発」を柱に技術士倫理綱領等の管理、技術者倫理の啓発、技術倫理及び技術者倫理の調査を主な業務として各地域本部と連携して実施している。

2023年に改定された技術士倫理綱領を、HPやYouTube等を活用して広く会員に周知するための活動をしているほか、技術者倫理シンポジウムを開催し、ジェンダー平等など、時事的なテーマを取り上げ



写真-2 塩原委員長

て技術者倫理に関する理解を深めるための取組や倫理的な問題に関する事例を収集・分析し、会員への啓発資料を作成している。さらに、技術者倫理に関する学習教材を開発し、会員が容易にアクセスできるような活動を実施し、今後は日本工学会など、他の団体とのさらなる連携を深め、倫理に関する議論を活発化させる。また、「技術者倫理自主教材の継続的な展開」や「倫理綱領の普及、啓発のためになにをすべきか」などが課題としてあげられる。

#### 2. 北海道本部倫理委員会から活動報告等

##### (1) 北海道本部倫理委員会からの活動報告

活動報告について、北海道本部倫理委員会佐々木幹事長から報告があった。北海道本部倫理委員会は、2008年に発足し、倫理に関する問題意識の高まりを受けて、技術者倫理に関する研究や教育活動を行ってきた。

主な活動として、技術者に関わる倫理的な事例を研究し、問題点や解決策を探ることや倫理に関する講演会の開催。また、学生に対する倫理教育などの活動を行っている。



写真-3 佐々木幹事長

特に力を入れているのは、大学での倫理教育で、北海学園大学や北海道科学大学では、毎年複数の講義を行い、学生たちに倫理的な思考力を養ってもらおうとしている。また、同委員会は、会員の高齢化という課題にも直面しており、若手会員の育成が喫緊の課題となっている。

同委員会は、技術者の倫理に関する研究や教育活動を通じて、社会に貢献し、今後も技術者倫理に係る研究やフォーラムなどの倫理啓発に取り組みなが

ら、倫理的な社会の実現を目指していく。

## (2) 北海道からの提言

北海道本部倫理委員会佐藤副幹事長より提言があった。昨今、急速に発展するAI技術が社会に与える影響と、技術者に対する倫理教育の必要性が重要視されている。特に、AIの不正利用や倫理的な問題が浮上している現状を踏まえ、技術者教育において倫理観を養うことが必要となっている。

AIの急速な発展により、社会は大きな変革を迎えている一方で、AIの不正利用や倫理的な問題も深刻化するなか、AI利活用を促進するためには、AIの基礎知識と倫理観を技術者に身につけさせることが必要である。

同委員会では、広域な北海道においてハイブリッド形式を活用して、技術者への倫理教育を行っているが、今後ブレンディッドラーニング(様々な方法を活用した学習方式)を活用し、AI時代において高い



写真-4 佐藤副幹事長

倫理観が求められている技術者に対して、多様な学習スタイルに対応できる持続可能な倫理教育を実施する。また、倫理教育の充実を通じて、技術者たちが社会の課題解決に貢献できるよう、持続可能な教育システムの構築が急務である。北海道からは、「多様な新技術を駆使した将来的利活用の展望」を提言した。

## 3. 技術者倫理情報交換会

近畿本部倫理委員会 田岡副委員長の座長のもと各本部から活発な意見交換がされた。技術者倫理教育は、大学や高专で導入が進む一方で、教育内容にばらつきがあり、現実の課題に対応しきれていない点が指摘され、実務と教育内容の乖離や、教育者自身の知識・経験不足が主な課題である。また、実践的な倫理的判断力を養う機会が少ないことも問題視されている。特に、AIやバイオテクノロジーなど急速に進化する分野では、新たな倫理的課題が頻出しており、これらを反映した教育カリキュラムの整備が遅れていることが現状として挙げられる。

倫理教育は、倫理教育内容を実務に即したものとし、実際の技術者が直面する具体的な倫理的課題を事例として取り入れる必要性が強調された。例えば、プロジェクトマネジメントにおけるリソース配分の倫理や、消費者保護に関する技術設計の実務的考察が重要視されている。また、教育の課題として倫理教育を担う教育者の育成が不可欠であり、専門性を持つ教員の研修プログラムや教材開発が求められ、さらに教育者同士の交流や知識共有を促進する場を設けることも提案された。

倫理教育は学生時代だけで完結するものではなく、企業内研修やオンライン学習を活用し、現役の技術者が継続的に学び続けられる仕組みの導入が必要で、特に中堅層や管理職層がリーダーシップを発揮する上での倫理観の強化が重視されている。さらには、グローバルな視点を取り入れ、他国の事例や国際倫理基準を学ぶことで、多様な文化や価値観に対応できる技術者を育成することが、今後必要ではないかと議論された。

AI、IoT、再生医療などの先端技術における倫理的課題への対応策を教育に組み込む必要性が指摘されたことにより、新しい分野における倫理的リーダーシップを発揮できる人材を育てることが目指されている。

技術者倫理情報連絡会は、教育内容の刷新と連携強化を通じて、技術者が社会的責任を果たせる教育体制を構築することが強調された。倫理教育は単なる知識の伝達にとどまらず、実践的で継続的な学びと、社会的文脈を意識したカリキュラムの構築が求められている。このような取り組みを進めることで、技術者が社会に信頼され、持続可能な未来を支える存在として活躍できることが期待される。

## おわりに

技術者倫理情報連絡会では、活発な意見が各本部等から発言され有意義な意見交換がなされた。今回話題となったAI倫理や技術者倫理教育、さらには教育者育成についても引き続き各地域本部との連携を深めながら、毎年行われる技術士全国大会での技術者倫理情報連絡会において、さらなる議論を交わしていく。